

堅実な守備・打撃

岩手

① 伝統をもたない弱味はあるが投手、小武方なこの好選手をばくくみ戦後の異球界にターク・ホースとして押しも押されぬ地歩をきずいたこのチームは、春季大会の善戦を生かして全体が急速な進歩を示している。

② 病体とされた投手陣は、コマ不足ながらエース村川の發球と新人松館のノビのあるシュートに

を中心に佐々木、松館と出す外野陣は懸念された守備範囲も広くなり一応まとまりのあるプレーを見せる。

③ 比較的低調だといわれた打撃力は田口、田中、小泉というクリンアップトリオを主軸に堅い短打戦法を身につけかなりの得点力をもっている。一番の板垣はしゅ

ん足、好打の理想型で二番松井から田口、田中、小泉、村川と続く打線は決勝点をたたき出すチームの原動力、今度の大会にはタークホースとして大いにその真価を発揮するだろう。

(21323332233)

(1323332233)

川館中井野垣泉三口館

村松田名平板小佐田松

投ク捕二三遊左中右



一応の態勢を整え、ことに長身から送り出す軽快なドロップとインコーナーの速球を武器とする村川はたのもしい。この両投手をリードする捕手田中は攻守ともに堅実なチームの大黒柱であるが、持前のフアイトに全軍をひきしめてい

る。
④ 春以来の猛練習が功を奏して最近意欲な上昇を見せた内外野の守備はスピーディな動作に守備範囲の広い三塁の板垣、好走好守に確実なプレーを見せる中堅田口らを中心にガッチリしたスクラムを組んでいる。内野では一塁手平野、一塁手久井ともに堅実な守備を誇るがことに三遊間は堅く、遊撃小泉の深い守備は定評のあるポイント。田口



岩手高の村川投手

奥羽大会への出場かけて

高校野球県予選の展望

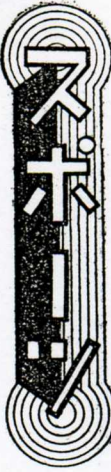


写真左は盛岡工チームの黒沢大正投手、右は盛岡工チームの黒沢大正投手の練習風景。

＝下＝

幸先 組合せ 良い盛工

新鋭どこまで食込むか



トランプ射撃大会
第四回東北七県、北海道組合員
会主催のトランプ射撃大会は、十
五日午前九時から花巻温泉射撃
場で行われる。



熊谷投手(盛工)、洞投手(高水)、水投手(黒工)

Cブロック
優勝候補の盛岡と大
阪を除く盛岡上を
除いてA級の實力を
有するチームは、高
田、岩谷、盛岡農
といつた新鋭の食込
みに期待するのみ。

Dブロック
この大会に前編シード
された盛岡、豊原の
間には攻守ともに
の不安を感じ、奥羽
大会への出場権があ
り得ない。

開れるカブに選手を駆使する小
野の強さは、すでに定評のあると
ころ。熊谷の剛速球とドロップ、サ
イドローのミドル投手潮川の
巧みなチェンジ・アウト・ベース
イも、いずれも盛岡農に勝つこと
であり、黒小に決点をおさえ、
本大会のような戦いにもつて
いける陣容だ。

佐々木の剛速球に得点を許さず
ます五分の興味ある試合と
なろう。特に素質のある大型速
手として将来が期待される岩谷
打撃のいい盛岡農は一回戦で高田
岩谷等のいすれかに顔を合わせる
が、攻守に活躍する高田(盛)を確し
て盛岡上あたりへの程度の食込
がりを許せるか、コマ不足の花巻
投手陣の黒古水も非力ではあ
らざるが、その間に期待するところ
が多い。いすれにしてもこのプロ
クは盛岡上を除くB、C級の二、
三回戦が興味中心で高田、岩谷
盛、盛岡農の激しい進出競争を
想される。おそろしく盛岡上は
試合をすすめ行くところが、決
勝あるいは奥羽大会を考慮して着
実な試合にもつてゆく事が肝要だ

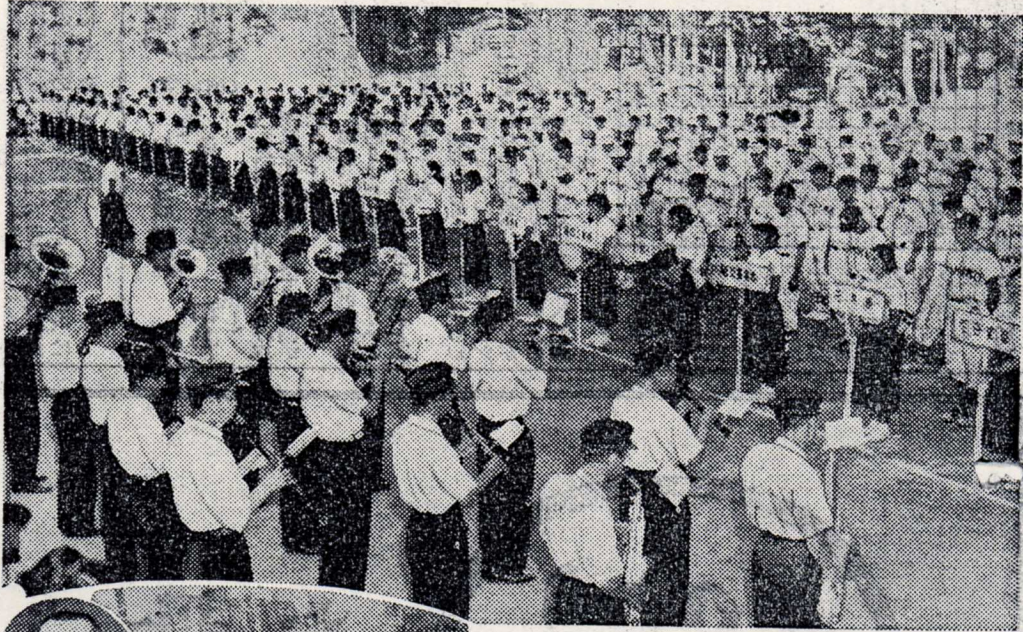
弱体といわれ、古野陣も三遊間
の強化で見事な向を見せ、完
勝の外野陣とも守備も相当
のところ。打力は高田、熊谷、
坂本といつたライン・アップ
・トリオを主軸、最近当りを見
せてきた高田、シユニア、本川
角谷など得点能力は高い。

この二チームを連うダーク・ホ
ースの盛工は、黒工投手
が好調で打撃も相、また本
りと強さをもち、三回戦
あたりで黒古水を苦しめる可
能性もある。ただ外野の守備固
が、失点を相手チームにあ
えるおそれがあるが、大畑
鳥谷部といつた大型打者のパ
ワーは、黒古水の独走をはば
むる威力をもち、その間に期待するところ
が多い。いすれにしてもこのプロ
クは盛岡上を除くB、C級の二、
三回戦が興味中心で高田、岩谷
盛、盛岡農の激しい進出競争を
想される。おそろしく盛岡上は
試合をすすめ行くところが、決
勝あるいは奥羽大会を考慮して着
実な試合にもつてゆく事が肝要だ

予断許さぬ
栄冠の行方
以上四ブロックで優勝した四チ
ームが、それぞれ三十一日から三日
間盛岡市で争奪戦が行われる。奥羽大
会出場権を賭かるが、いすれも偉大
の實力をもち、その間に期待するところ
が多い。いすれにしてもこのプロ
クは盛岡上を除くB、C級の二、
三回戦が興味中心で高田、岩谷
盛、盛岡農の激しい進出競争を
想される。おそろしく盛岡上は
試合をすすめ行くところが、決
勝あるいは奥羽大会を考慮して着
実な試合にもつてゆく事が肝要だ

盛岡高	20日 7時(市)	22日 8時30(市)	A
岩手高	21日 8時30(市)	23日 8時30(市)	
福岡高	20日 1時(市)	24日 12時(市)	
水沢高	20日 9時(市)	22日 10時30(市)	B
盛岡農	21日 10時30(市)	23日 10時30(市)	
花巻高	20日 3時(市)	25日 1時(市)	
盛岡工	20日 11時(市)	22日 12時30(市)	C
山形高	21日 12時30(市)	23日 12時30(市)	
盛岡一農	21日 2時30(市)	24日 2時(市)	
水沢一農	20日 10時30(鉄)	22日 2時30(市)	D
岩手一農	20日 12時30(鉄)	23日 2時30(鉄)	
盛岡二農	20日 8時30(鉄)	22日 8時30(鉄)	
平泉高	21日 2時30(鉄)	23日 12時30(市)	E
盛岡三農	20日 10時30(鉄)	22日 10時30(鉄)	
花巻二農	21日 12時30(鉄)	24日 2時(市)	
盛岡四農	20日 8時30(一)	22日 12時30(鉄)	F
釜田高	21日 2時30(鉄)	23日 2時30(鉄)	
沼宮内	20日 10時30(一)	22日 10時30(一)	
日詰高	20日 12時30(一)	22日 12時30(一)	G
宮古高	20日 2時30(一)	22日 2時30(一)	
黒沢高	20日 2時30(一)	22日 2時30(一)	

意気高く 球児の行進



つどろろ 精鋭37チーム

高校野球 花やかに開会式

- ① 甲子園をめざす、熱と力の祭典、第三十七回全国高校野球選手権大会開会式は、二十日の試合開始に先立ち
- ② 十九日午後四時十分から三十七校全選手による市内行進、同四時半から岩手大園球場で開会式が行われた。炎天下六百
- ③ 間にわたる『夏の熱球譜』の前途を祝すかのようにからりとした夏型の天候に恵まれたが、六百奈球児の高まる意気の
- ④ もと街は高校野球一色にぬりつづされた。

この日午後四時三十七チーム選手、旗、役員団、審判団、昨年度優勝六百奈球がマークもあきらかに純白のユニフォーム姿で桜城小学校校庭に集合、同四時十分盛装フラ

の市内行進を行った。沿道は旗をうち振り再振を誇る選手のパフォーマンスに騒がれた。市内行進する選手団、内には表彰された長沢氏

で埋まり、爆竹、紙吹雪、七色テープの乱れと空中に大会気分はいやが上にも高まり県都盛岡は大会色にわきたった。

開会式は四時半松島県高野連理事長の宣言、続いて前年度優勝の福岡商、準優勝の黒沢匠工商からそれぞれ優勝旗、カップの返還があり、樋口高野連会長から「若人の意気を示し全力をあげて健闘、甲子園の優勝をめざして悔なれ、戦いをしてほしい」とあいさつ、県教育長代理佐藤次長の激励の辞、山本市長の歓迎のことは、朝日新聞社のメッセージのあと記念品が贈られた

選手一同を代表して福岡高佐藤主将が『高校野球の真髄にのっとり正々堂々と闘つてを誓います』と力強く宣誓を行った。

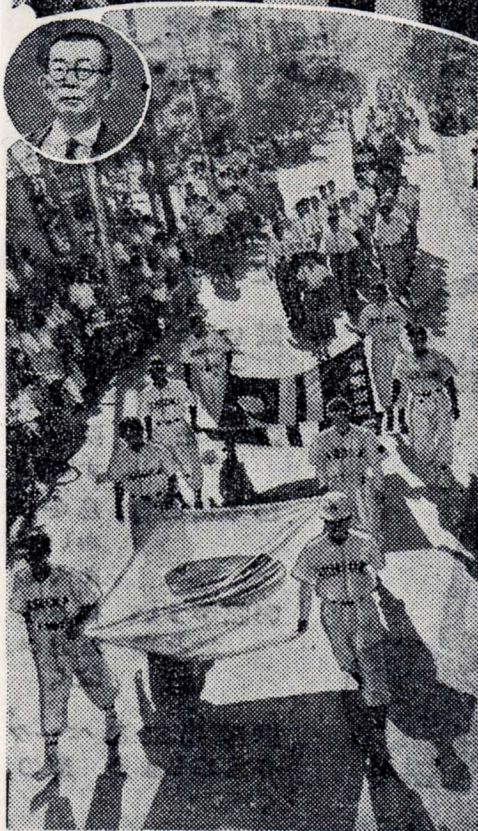
このあと県野球界の功労者長沢雄二氏の表彰式が行われ、盛装フラバンドの伴奏で市立高松生員余名の『全国高校野球の歌』を合唱同五時終了。引続き同五時から県自治会館(旧町会館)で主将会議が行われ、最後の打合せを終った。

審判員坪井氏来盛

二十日から行われる全国高校野球選手権の公式審判員としてことしも東京六大学野球審判員坪井忠郎氏、東大出、が来盛する。

出場高校の宿舎

- ▽久慈(県職員寮八〇九)▽福岡(井屋旅館九五)▽平館(土屋旅館一三五)▽軽米(土沢屋旅館四六八)▽花巻北(似内旅館三九九)▽花巻南(秀雲閣四八七)▽土沢(土沢屋旅館四六八)▽黒沢匠北(昭亦旅館八八)▽黒沢匠工(菊屋旅館一五三)▽水沢(土沢屋旅館四六八)▽水沢(八幡神社)



炎天下に熱球飛ぶ

高校野球の幕開く

盛商、岩高第一戦飾る

橘高、黒工に善戦して敗る

第三十七回全国高校野球選手権大会岩手選抜二十日から六日間わたって盛岡市営球場をはじめ盛岡一高の三会場において炎天下各地から集まった精鋭三十七チームで熱と力の熱球を繰広げた。この日朝からやけつよな暑さで各チームは悩まされ、たがひ一色で埋めつくされた大観衆と応援団の盛んな声援のもと、母校の栄誉を双肩に担って力闘の限りをつくした。第一日に盛岡市営球場では盛岡商は岩手を11Aと11Bと2コート・ゲームで大勝するなど、極寒を乗り越え、また各試合を通じて高校野球にふさわしいふん闘気をたよわせた。

市営球場

一回戦

盛商11A...1岩泉
(五回コールド・ゲーム)
岩泉先攻午前七時開始(球審菊池(岩手) 近江、藤村、菊武)
盛商 1000 000
岩泉 003 35 11

【菊池主審評】岩泉は先攻得意で準備したが、やはり練習不足で試合になれぬため弱味があり三回三塁奪われ、から急にながすきりしなかったが、三回二死満塁から柴田が外野の二塁打を打ち、がせムライトを出して四回、五回と順調な得点をあげ、勝利をものにした。

【写真】岩泉対盛商戦、四回の裏盛商主審の三塁ゴロで三塁走者高木生野が岩手高対一関二高へ一塁表村川の三塁ゴロで阿部本塁へ投げ、岩手捕手の失策で田中、田中相づいで生還。

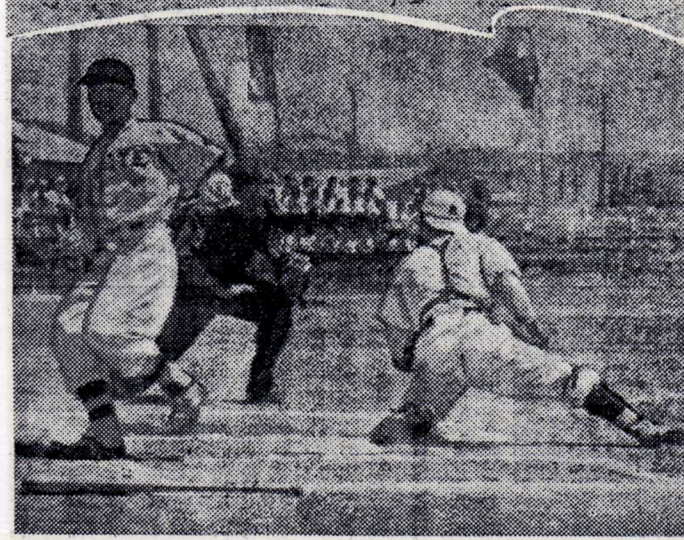
花 0 1 1 0 0 0 0 0 0 0 2
千 1 0 0 4 0 0 1 0 A 6
マバッテリー(花) 伊藤一佐
藤(重) (千) 佐藤信、佐藤
俊(小山) 三打部(花)
千(千) 藤(重)
【藤原主審評】スケールが小さいが熱のある試合だった。花

黒の投手伊藤は非常に切れのよいカーブと重味のある速球で好投したが、二年で構成された守備陣は試合経験が不足で比失を出し、四回裏四点を千に献上し敗退した。これに反し千は内野陣の好守が大きな勝利となった。打力はどちらも五角とところ。

【斎藤主審評】日詰は野守の失策でくさり自滅した。投手高橋も球威無く中盤以降宮古打線をおさえる事が出来なかつた。宮古は勝つべくして勝つたが打線の当りももう少し欲しかった。走塁も下手だ、優勝候補ならもう少し試合運びをうまくしなければならぬ。貴岡投手は日詰から12三振を奪ったが、彼としては普通の出来はであった。

【斎藤主審評】両チームともスケールが小さく精彩のない試合だった。ことにスクイズ戦法に対する内野のさばきが悪く失点が多かつた。また打撃もウェイトンが多、好球を見逃すなどまだ精進が足りない。山田の要因は投手交代の不手際であり、せつかく上がった土気をそれで崩してしまつた。

【斎藤主審評】守備はどちらも互角、わずかにすぐれた打撃と三回から交代した若人里館の好投で土高は勝利をものにした。両チームとも練習不足のため試合は低調だった。平熊は最初あがり気味で打撃不振が原因。今



盛岡 1 0 1 0 6 0 0 4
岩手 0 0 0 0 0 0 0 0

一回戦

一高球場

釜工12...0広田水

(七回コールド・ゲーム)
釜工先攻午前八時半開始(球審)長沢(常) 山崎、村松
(急)金矢

釜工 1 0 1 0 6 0 0 4
広田水 0 0 0 0 0 0 0 0

盛岡 0 0 0 0 0 1 0 0 0 1
岩手 0 0 0 1 0 2 1 0 A 4

一回戦

岩手高7...3一関二

岩手高先攻午前十一時十八分開始(球審)長沢(常) 青木、高橋、阿部

岩手高 5 1 0 0 0 1 0 0 0 7
一関二 1 0 0 0 0 0 0 2 0 3

マバッテリー(岩手) 村川一田
中(一関) 佐々木正十 岩瀬康
▽二塁打田中(岩手)

盛岡 0 0 0 0 0 1 0 0 0 1
土沢 0 0 1 0 0 2 0 0 1 4

一回戦

土沢4...2平館

土沢先攻午前八時半開始(球審)高橋(自)藤原、阿部

土沢 0 0 1 0 0 2 0 0 1 4
平館 0 2 0 0 0 0 0 0 0 2

マバッテリー(土沢) 瀬川一川人
(平館) 伊藤、田村、里館一松
坂▽二塁打佐々木(平館) 多田(土沢)

盛岡 0 0 0 0 0 1 0 0 0 1
釜工 0 0 0 0 0 1 0 0 0 1

一回戦

釜工0...1盛岡

釜工先攻午前八時半開始(球審)長沢(常) 山崎、村松
(急)金矢

釜工 0 0 0 0 0 1 0 0 0 1
盛岡 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0

マバッテリー(釜工) 山崎、村松
(盛岡) 長沢(常) 山崎、村松
(急)金矢

7口野球 19日

①パリーグ

近鉄	1 4 1 2 1 0 7
阪神	失三 四 犠 併 併 併 併
阪急	0 3 1 3 1 0 6
オリックス	0 2 1 0 0 1 6
南海	失三 四 犠 併 併 併 併
セ・リーグ	0 3 2 1 2 0 4
阪神	0 9 1 1 0 1 3
巨人	失三 四 犠 併 併 併 併
大洋	1 4 1 0 0 1 4
中日	0 1 0 0 0 0 8
中日	失三 四 犠 併 併 併 併
中日	1 5 6 1 1 0 8

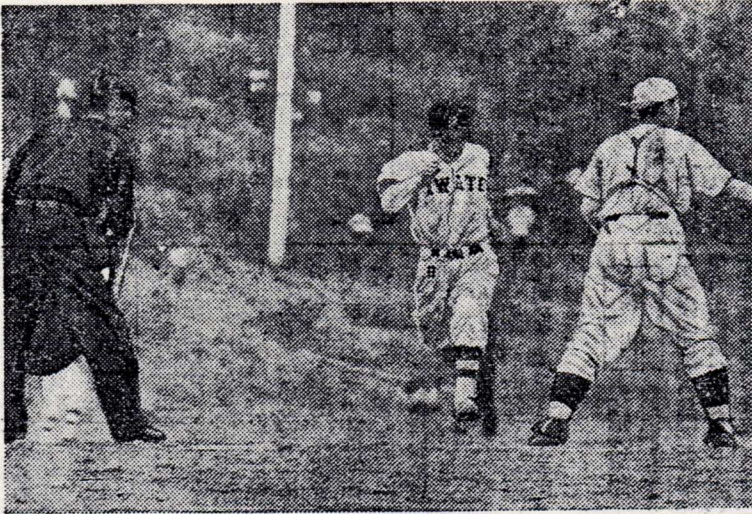
きよろう準々決勝

高校野球 奥羽大会出場かけ

さる二十日開幕した全国高校野球大会奥羽予選は母校の栄誉をになう県下三十七チームの精鋭を集め、奥羽大会への出場をかけて熱戦を展開してきたが、二十三日岩手高対黒岩北高の一戦で三回戦を終了、二十四日から勝ち残った八チームによる準々決勝が行われる。

準々決勝予想

【福岡 高対一戸高】
つた好チームだが、福岡高が試合なれた古豪であるのに反し、一戸高は戦後のチームであり、また対一戸高の戦いで全力を消



耗した一戸高は疲労が大いといふハンディキャップがあるろう福岡高は都鳥、藤田の両好投手を擁し、好調ではないがかなりの得点力を持つ打撃陣が大きな強味。これに対し一戸は投手力は多少弱体だが、持前のフットと好打線があり、捨身に食いついて独特のねばりをみせれば、面白い試合が展開する。

【花巻北一岩手高】好調な打線と中村投手のチェンジ・オブ・ペ

岩手高、黒北を降す

夕刊一部既報、高校野球大会第三回戦の岩手高対黒岩北高の試合は二十三日午後一時から降雨をうけて盛岡市営球場で行われた。結局打撃の強い岩手高が黒岩北高を十一対二と五回コールドゲームで破り準々決勝に進出した。

市営球場

岩手高12...2黒北
岩手高先攻、午後一時開始(球審) 写真は三回の表岩手高二死二、三塁の時、小泉のレフト前、安打で三塁ランナー田口生達

一スを誇る花巻北は対盛岡一高に大勝して上昇傘上にある。しかし岩手高もエース村川が対黒北との一戦にかなりの好投を示しており、要は村川が花巻の打撃をいかに食いとめるかにかかっている。

【盛岡工対盛岡農】地元同士の戦いだが練習試合では盛岡工が勝っている。投手力は三人も擁する盛岡工にいく分歩があるが、打撃は互角であり、上昇をたどる盛岡農打線か盛岡工投手陣をどう打ち出すかがこの試合のヤマとなる。

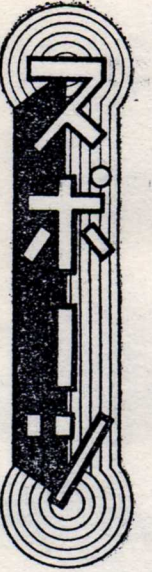
【宮古高対遠野高】宮古の一枚看板、剛速球投手貫洞の調子いかに勝敗は決するだろう。遠野高の小島、工藤、佐々木のクリーン・アップ・トリオが貫洞をここまで打ちますが貫洞の中心、また遠野高の工藤、山本両投手にしてもコントロールがあり接近した好試合となる

坪井(塁審) 斎藤、高橋、空戸
岩手高 354 0012
黒岩北 000 112

(5回コールドゲーム)

▽バッテリー(岩手高)村川一田中(黒岩北)藤田、沢藤一高橋▽三塁打 沢田(黒岩北)二塁打 田中、田口、板垣(岩手高)

【坪井主審詳】立上がり藤田の不調につけ込んだ岩手が一回、一回三回と大量得点、ことに上位打者の堅実な打撃が大きな勝因となった。岩手高村川はのびのびの打撃は前半振らずようやく確実なミートニングに持っていたときはすでに遅かった。



一戸岩手・盛工・宮古

奥羽大会出場校決まる



夏の球宴高校野球選手選第四日は勝ち進んだ精鋭八チームを集め、二十四日午前九時から盛岡市宮球場に奥羽大会出場権をかけての準々決勝四試合を挙行した。この日は午前中曇天だったが、本大会のビッグ・フォアを決定するにあつて観衆の出足は早、球場は約二万の人で埋まりここに大会は最高潮の観を呈した。熱闘の末結局一戸高、岩手高、盛岡工、宮古高の四チームが精銳の奥羽大会出場権を争ひ奥羽大会での善戦が期待されている。

古豪福岡高敗る

手痛い一塁手の悪投

一番里一死後根反の内野ゴロで一運、浅利の左飛球を高橋佐藤が間に一塁生還一点を先取。その後高橋と打撃は沈滞、山岸、都島間エースも好投を見せず四回裏に入ったが、この福岡は二四球、一安打で一点を返す。新鋭一戸は六回表、一四球、一安打からまたも一点を加えたがその裏福岡は山岸の不調から三四球を奪い、千葉英樹の中越三塁打で一挙三点をあげり一戸。しかし闘志に燃えた一戸はその後の内野の好守に福岡をおさえ、七回一失、二安打から二点、九回も根反の右中間一塁打を足場に福岡一塁手吉田の暴投などあり貴重な一点をあげ勝利をもたした。

福岡	0000001000
一戸	0000001100
計	0000002100

【長次主審評】一戸は強豪相手とあつて勝敗を度外視して気楽に戦い進め、福岡の凡プレーに救われ勝利をつかんだ。福岡はあまり整球よくない山岸投手をもっと慎重に攻めるべきであり



岩手高打撃の勝利

岩手高9A：2花巻北 殆く皆坪井善善、高橋清花北先攻、午前十一時五十六分開 高野



【経過】一回裏岩手は板垣四球のあと、田中の左前安打で生還し先取得点をあげた。続いて二回表、奮起した花北は四球と三塁打で一点を返し、四回裏にも内野手と一塁打。しかし岩手は花北大塁投手を攻め、ほとんど毎回走者を出し五回かわつた中村の立上り不調に乗じて四安打、二四球を一挙にあひせ、大塁五点をあげ試合を決定つけた。岩手は三回裏に三塁打を打ちあひ、チャンスをつかみ、逆に岩手は七回に一点、八回にも再度岩手の大塁をせめ一塁打を多くし安打を集中して二点を加え9A：2と打撃の勝利を得た。

岩手	0100100000
花北	0000111000
計	0100211000

盛工 全員安打を記録

盛工 28121111 三四橋益併戦 4710007

【経過】一回裏盛工は一死後、坂本の二塁打を含む二安打、一四球から二点をあげれば、対する盛工は吉田進の二塁打を足場に一点を獲得した。盛工は三回裏も一四球、一失、一飛球で二回裏に一点を加え試合を有利に進めたが、一方盛工の打撃はふるわず、七回まで三者凡退で抑えられ通じた。盛工は毎回走者を出し、六回には小野の内野安打をはじめとする三安打、一失を奪いまたも三点を追加。なおも攻撃の手をゆるめず七回一点、八回には奥谷の二塁打を含む六本の集中安打をあげて全員安打の記録のうちに計12点と大きくリードを奪った。盛工は後半は闘志にかけていた。岩手は打つべきときによく打ち、打ち勝つたといつて可い。花北の暴投は時期的に悪くなつたが、練習をしていなくなつた中村をリリーフに送つたのは必ずやけなない。花北大塁の打撃はよかつた。

盛工	010000000000
盛工	010000000000
計	020000000000

貫洞、遠野高を完封

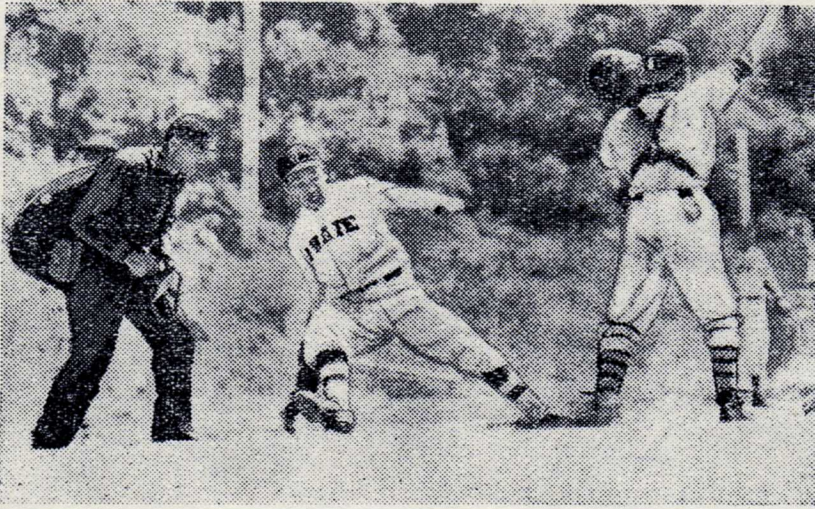
宮古高1A：0遠野高 遠野先攻、午後四時四十五分開始 (球審)坪井(兼審)長次(常)藤原(専)菅村

【経過】遠野は宮古貫洞投手の好投にさらされ打撃は全く振らず五回まで三者凡退の貧攻ぶりだった。一方宮古は三回まで安打一本ずつを放つたが、いずれもチャンスには至らず前半は貫洞のままた後半戦を迎えた。その後宮古は六回裏、この回のトップ打者佐々木が中越三塁打を打ち、一死後五番柳沢の巧みなスクイズ作戦が効を奏し貴重な一点を先取。奮起した遠野は七回小島の二塁打を足場に健闘

宮古	0000000000
遠野	0000000000
計	0000000000

岩高、一戸に打勝つ

高校野球 相譲らぬ盛工・宮古



夏の球宴全国高校野球選手権第六日目の二十五日は盛岡市宮球場で、対宮古高戦をそれぞれ争行、炎天正午から雨は勝第一試合一戸高対

【写真は一戸対岩手高戦】二回表、岩手高一死満塁の時平野の安打で二塁走者佐々木生還。
つて熱戦がくりひろげられた。第一試合は猛烈な打撃戦となり、波乱を招いたが、結局打撃に一日の長がある岩手高が14A:9で打ち勝った。
◇準決勝
岩手高14A:9一戸高
一戸先攻 午後零時開始(球審)長沢正(塁審)斎藤、高橋、実戸

打	得	安	犠	三	四	盗	失	【一戸】	打	得	安	犠	四	盗	失
1	0	0	0	0	0	0	0	北山根	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	山根	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	山根	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	山根	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	山根	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	山根	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0	山根	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	山根	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0	山根	0	0	0	0	0	0	0
計	36	14	12	2	2	9	0	計	37	9	11	2	2	11	2

【要評】試合は両軍投手の疲労と球威のない投法で乱打戦となった。ここに一戸の山根は、ひじを痛め山田と交代したが、いずれもコントロールがなく四球の連続、それに好球を好打されて二、三回、六回と大量得点を与えたのが大きな敗因。しかし一戸の打線もかなり強く、松本、村川両投手から連続安打を奪って前半シソーゲームとなったが、後半村川の立直りにそのまま押しきられた試合だった。いずれにしても投手力の弱体はひどく奥羽大会での奮起を望みたい。

奥羽大会に勝て

出場四チーム激励

県高校野球閉会式 岩高に輝く優勝旗

こぼつような炎天のもと県下三十七チームの精鋭を集めて行われた夏の高校野球県予選は球趣をつくす激闘の末二十六日岩手高の初優勝で七日間にわたる熱球譜の幕を閉じた。閉会式は試合終了後午後三時から同球場で行われ、優勝旗、準優勝杯が授与されたあと樋口高野連会長、佐藤教育庁次長、小川副知事からそれぞれ「きたるべき奥羽大会には若人の熱と力で健闘、是非甲子園大会に出場して下さい」と激励のあいさつがあり、田中岩手高主将が「われわれ四校は岩手代表として全力をつくし立派に戦います」と力強く宣誓、三時半大会の幕を閉じた。かくて岩手高、宮古高、一戸高、盛岡工高の四校はきたる三十一日から三日間盛岡市営球場で行われる奥羽大会に出場、甲子園めざして秋田、青森勢と勝利を争うこととなった。なお岩手高は昭和二十一年野球部を創設して九年目に栄冠をかち得たのである。



川村岩手高監督の話 着以来の不
成績を越え初優勝の念願を達し
〔写真〕勝利に沸く岩手高応援団
①優勝に輝く岩手高ナイン

『守備』にまだ不安

たのは最大の喜びだ。選手を始め後援会、先輩諸兄の精進と協力には心から感謝している。このような結果はすべて一体となり一戦々々を堅実に勝ちとつたことだが奥羽大会には全手をあげ皆さんの期待にこたえたい。内外野の守備がまだ十分でないため三十一日までの教日間に努力したいと思う。

貫洞投手に期待

木村宮古高監督の話 予想以上の善戦だった。準々決勝がヤマだと思っていたが、決勝戦は体力的な疲労からベスト・コンディションにもって行けず、打線の不調で岩手の村川を攻略出来なかった。しかし先発の佐々木始め全選手の努力には感謝している。奥羽大会までには一層の練習を重ね、勝つというよりも高校野球の名に恥じないような態勢で立派に戦いたい。貫洞も二回位の連投には調子を持続させるから相手期待出来ると思う。

新進チーム台頭

攻守ともまだ荒けずり

【村松大会審判長総評】
宮古、一戸、軽米などをはじめとする新進チームは、はじめてとする新進チームの台頭がめだち、全般的な水準はかなりの向上を見たが、絶対的な力量をもつチームが見当たらないのはさびしい。攻守とも荒けずりな点が多く二層の精進が要望される。盛岡一をはじめとする各同チームがマクラをならべて討ちとら

れるが、ビッグ・フォアをはじめ福岡、一関、花巻北、盛岡商、遠野などといったところはいすれも五分の実力をもっておりその勝敗は全く紙一重の差で決定した感がある。

れたのは、チーム全体の精神的な不安定、円熟した実力の欠陥などが原因であり今後の精進を望みたい。またこしは正統派の投手投手が全々姿を消し、いってはいけぬ貫洞位なものだが投手力の養成は勝敗を決定する大きなヤマであることはいうまでもない。最後に強く望みたいことは奥羽大会に出場する四校が各門、古戦を打倒した意気を忘れずに最後までやるべし、す堂々とコマを進めてほしい。